



産業建設厚生常任委員長  
藤本 岩義  
ふじもと いわまし

## ●スポーツ ツーリズムの振興 (日田市)

スポーツツーリズムという言葉は、スポーツが観光資源になるという意味です。スポーツを見たり、大会に参加したり、参加者の応援をしたりすることが主要な動機で、それに周辺の観光を合わせた旅行には潜在的なニーズがあるという見方です。

日田市は「日田市スポーツ

- 振興計画」を定めており
- ①スポーツ実施率の向上
- ②競技スポーツの振興
- ③スポーツによる交流人口増
- ④施設利用の向上
- ⑤スポーツ活動支援ボランティア体制の充実



日田市役所会議室にての研修の一コマ

この5つの実践的な目標をたて全市挙げて取り組んでいくとのこと。主なものとして3つあげて頂きました。

■「椿ヶ鼻ヒルクライムレース」は、昨年の参加者が351名ですが13kmの急な上り下りの坂を自転車でするものでJBCF公認です。プロも参加するためテレビ等でも放映され、知名度アップになっているそうです。

■「ひた40195チャレンジウォーク」は、行政がほとんど手助けせずスポーツ推進員を中心に実施していますが少参加者が少なくなってきたのでコースの再検討を始めたとのこと。

■「天領日田ひなまつりマラソン」は、豆田町（伝統的商家町）を通るなど工夫を凝らし、昨年のエントリーは1459人となっています。スポーツによる市内の宿泊は把握していないが2002年のワールドカップにおいてカメルーンのキャンプ地になった中津江村の鯛生（たいお）スポーツセンター（サッカー場）は年間3万人が宿泊し、運営も順調で市からの持ち出しも少なく優良施設とのこと。また、スポーツに関するアンケートでスポーツ実施による住民満足度が高い方は、地域愛着度が高く定住にも繋がっているそうです。

## ●熊本城の災害現場と復興状況

石垣の崩壊は、最近の研究によると近年に補修（陸軍による補修）したものはほとんどが崩れたようです。調査によると敵を防ぐためのそりが実は揺れから力を分散し安定させるための工法で、加藤清正が入城後この工法で整備しているとのこと。左の下の写真の後方は30億円の経費で復旧の始まった天守閣です。また、崩れた石垣に多く見られるのは石垣の裏石に角張

った小石が使われていることが判明したそうです。しっかりとしている石垣の裏側は、角のない丸みがあった小石が使われておりこれも力の分散が図られているとのこと。復旧に向け石垣の石はそれぞれに番号が振られておりコンピュータによって保管場所や形状が記憶され、使用されていた位置、石の向きなど石積みの補助を行い作業の効率化が進んだため、作業期間が短縮されるようです。



被害のあった石垣と助かった戌亥櫓



被害のなかった石垣と宇土櫓  
左奥には修復中の天守閣が望める